

《本庁舎への導入機能》

本庁舎に導入する機能と内容については、基本理念と基本方針を実現するため、次のとおり行うことにしています。



① 窓口機能

- 総合案内を設置し、窓口のワンストップサービスを検討します。また、見通しのよい待合空間やユニバーサルデザインに配慮した整備を行います。



② 市民交流機能

- 市民が来庁時に懇談などができるロビーやラウンジスペースの確保を検討します。
- さまざまな情報を共有できる情報コーナーなどの設置を検討します。
- 多目的スペースや授乳室、キッズコーナーを配置します。
- 銀行等のATM（現金自動預け払い機）や売店などの整備を検討します。
- 来庁者また窓口職員の昼食スペースの整備を検討します。



③ 防災機能

- 災害時の防災拠点として災害対策室を設置し、電源の確保や情報システムのバックアップに必要な自家発電設備、また、災害備蓄物資倉庫を設置します。
- 災害時の避難所として避難スペースの整備を行い、市民の安全を確保します。



④ 議会機能

- 議場は円滑な議事運営ができるように、機能性や独立性に配慮します。
- 市民に開かれた議会とするため、傍聴しやすい空間整備を行います。



⑤ 執務機能

- 効率的な事務が行えるようにオープンフロアとし、将来的な組織変更にも柔軟に対応しやすく、関係部署の連携が取りやすい執務空間とします。



⑥ 環境対策

- 環境面やライフサイクルコストに配慮し、自然エネルギーの活用や環境負荷低減に配慮した施設整備を行います。

※画像はイメージです。

《本庁舎の主な整備方針》

天草市本庁舎建設基本計画に盛り込んだ主な整備方針は次のとおりです。

建設計画地は 現・天草市本庁舎敷地

天草市本庁舎建設検討委員会において、現地で建て替えが望ましいとの提言がなされました。市では、同検討委員会の提言を尊重しながら、市議会の庁舎建設に関する特別委員会の意見などをふまえ、市において建設候補地の総合評価を行った結果、現在の天草市本庁舎敷地（東浜町）を建設計画地とすることとしました。



◀空から見た
本庁舎敷地

分散している庁舎機能を 集約化

市民の利便性や行政運営の効率化、経済性などを考慮し、現在、本館と別館などに分散している部署を集約化して本庁舎を建設することとします。

本庁舎の延べ床面積は 約15,000㎡、 来庁者用駐車場は130台 を想定

本庁舎の延べ床面積は約15,000㎡と想定しています。

また、駐車場の整備については、来庁者用は必要な台数分を庁舎敷地内に整備することとします。駐輪場については来庁者用と公用・職員用に区分し、庁舎敷地内に整備します。

全体事業費は 65億3,700万円を予定

事業費については、本庁舎建設工事費として55億円、既設庁舎の解体や屋外環境整備などに8億1,000万円、設計・監理委託費として2億2,700万円を見込んでおり、全体事業費として65億3,700万円を予定しています。

財源としては、全体事業費の3分の2は国の「合併特例債」（借金）を活用し、残りの3分の1を市が負担することとしています。

平成27年度中の着工、 同29年度中の完成、 同30年度の開庁を目指す

今後のスケジュールについては、今年度から来年度にかけて基本設計と実施設計を行い、平成27年度中に着工、同29年度中の完成、同30年度の開庁を目指します。

《くまもとアートポリス事業へ参加》

本庁舎の建設については、市の核となる施設として、また、天草という地域にしかつくり得ない庁舎の実現を目指すため、「くまもとアートポリス事業」に参加することとし、同事業の中で本庁舎の設計者を選定することとしています。

※くまもとアートポリス事業とは…県が、後世に残り得る優れた建築物をつくり、質の高い生活環境を創造するとともに、地域文化の向上を図り世界への情報発信基地「熊本」を目指すことを目的に、昭和63年から推進している取り組み。市内では、牛深ハイヤ大橋やうしぶか海彩館、天草工業高校実習棟・体育館が、同事業により建設されています。